

NIPPO
執行役員中部支店長

ひろし
山縣 裕氏



支店長

中部圏での勤務は3年ぶり。本社の工事部長を経て、入社2年目から30年間所属した中部支店を率いる立場となった。「人も現場のこともよく知っている。明るい雰囲気づくりに努めたい」。

東海4県を担当エリアとし、公共工事だけでなく自動車メーカーをはじめ製造業からの受注工事も多い。就任時に社員に呼び掛けたのは、工事は安全第一に徹し、働き方改革へそれぞれの意識も変

る以上のものを求めてこそプロであり、社会人としても恥ずかしくない人材を育成していきたい」。

培った技術力の継承へ

えること。

自身が技術者としてのスキルを磨いた地域だけに、若手社員の育成にも積極的に取り組む考えで、「先輩たちが培ってきた『技術の中部』と言

われるほどの高い技術力を、後輩たちに引き継いでいかなくてはいけない。製品販売も含め顧客に満足していただく

興味はサッカーやラグビー、野球などのスポーツ観戦。

(4月1日就任。大阪工業大学土木工学科卒。広島県出身、56歳)



支店長席



舗装のプロ意識根付かせる

本社で3年間、工事部長として勤務し1日付で就任した。中部支店に30年間勤務した実績を生かし支店運営を心がける。顧客満足度以上のものを納めるのがプロだ。

NIPPON 執行役員中部支店長

やまがた ひろし
山縣 裕氏

先輩たちが築いた高い技術力を次世代につなぐ。舗装のプロとしての意識を支店に根付かせたい」と抱負を述べた。新型コロナウイルス感染症への対応など、社会情勢が変化する中、「向上心を持ち続け、社会人として謙虚な姿勢を忘れないでほしい」と社員に呼び掛ける。

現場などの安全対策として「社内はもちろん、関係会社の職員も含め『安全人間』を育成する」。さらに魅力ある建設業とするため、「若手がやりがいを感じられるチームづくりを進める。努力をきちんと評価し、達成感を高めたい。『目的なき者に成功なし』の精神

で前に進んでほしい」と語る。そのためにも「建設キャリアアップシステムの登録が重要。先頭に立ちモデルケースとなれるよう取り組んでいく」との方針を示した。

初めての現場は青森県。竜飛崎周辺で舗装工事に携わった。入社6年目の1991年、静岡県競輪場改修工事では「ミリ単位の厳しい精度が求められた。わが社の技術者は重機を扱うタイミング、チームワーク、すべてが完璧でものづくりへのこだわりを学んだ」という。

1986年3月に大阪工業大学木工学科卒業後、同年4月日本舗道(現NIPPON)入社。自動車テストコース、高速道路の舗装工事など多くの現場に携わった。趣味はスポーツ観戦。広島県出身、56歳。